

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	力学基礎
科目基礎情報						
科目番号	0013		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	総合物理 1 ー力と運動・熱ー, 新課程 リードα 物理基礎・物理, フォローアップドリル物理基礎/物理, 改訂版フォトサイエンス物理図録					
担当教員	矢口 久雄					
到達目標						
☐ 高校物理程度の力学の基礎を理解し, 代表的な系について運動方程式を立てることができる. ☐ 質点の位置・速度・加速度を求めることができる. ☐ 力学的エネルギー保存則と運動量保存則を使うことができる. ☐ 運動方程式や各種保存則を利用し, 質点の運動を扱うことができる.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	質点の位置・速度・加速度に関する基本的な考え方を深く理解し, 発展的な問題に適用できる.		質点の位置・速度・加速度に関する基本的な考え方を理解し, 基本的な問題に適用できる.		質点の位置・速度・加速度に関する基本的な考え方を理解しておらず, 基本的な問題に適用できない.	
評価項目2	運動の法則に関する基本的な考え方を深く理解し, 質点や剛体のつりあいや, 質点の運動に関する発展的な問題に適用できる.		運動の法則に関する基本的な考え方を理解し, 質点や剛体のつりあいや, 質点の運動に関する基本的な問題に適用できる.		運動の法則に関する基本的な考え方を理解しておらず, 質点や剛体のつりあいや, 質点の運動に関する基本的な問題に適用できない.	
評価項目3	運動量の保存則と力学的エネルギー保存則に関する基本的な考え方を深く理解し, 発展的な問題に適用できる.		運動量の保存則と力学的エネルギー保存則に関する基本的な考え方を理解し, 基本的な問題に適用できる.		運動量の保存則と力学的エネルギー保存則に関する基本的な考え方を理解しておらず, 基本的な問題に適用できない.	
評価項目4	運動方程式や各種保存則, 万有引力の法則に関する基本的な考え方を深く理解し, 等速円運動や単振動, 惑星の運動に関する発展的な問題に適用できる.		運動方程式や各種保存則, 万有引力の法則に関する基本的な考え方を理解し, 等速円運動や単振動, 惑星の運動に関する基本的な問題に適用できる.		運動方程式や各種保存則, 万有引力の法則に関する基本的な考え方を理解しておらず, 等速円運動や単振動, 惑星の運動に関する基本的な問題に適用できない.	
学科の到達目標項目との関係						
準学士課程 B-1						
教育方法等						
概要	高校物理の教科書にほぼ則して, 力学について講義します.					
授業の進め方・方法	座学					
注意点	様々な学問の中で, 物理学はその修得に著しい困難を感じる学生が特に多い学問です. 復習を中心に, 日頃から地道に学習に努めて下さい. また一人では解決できそうにない疑問点を, 納得できないまま何日も放置しないようにしましょう. このような疑問点は決して一人で抱え込んだりせず, 先生や物理の得意な級友に, その都度早め早めに質問して教えてもらうことを強くお勧めします.					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	運動の表し方(1)			
		2週	運動の表し方(2)			
		3週	運動の表し方(3)			
		4週	加速度			
		5週	落体の運動(1)			
		6週	落体の運動(2)			
		7週	落体の運動(3)			
		8週	力のつりあい			
	2ndQ	9週	運動の法則(1)			
		10週	運動の法則(2)			
		11週	摩擦を受ける運動			
		12週	液体や気体から受ける力			
		13週	剛体にはたらく力のつりあい(1)			
		14週	剛体にはたらく力のつりあい(2)			
		15週	剛体にはたらく力のつりあい(3)			
		16週				
後期	3rdQ	1週	仕事			
		2週	運動エネルギー, 位置エネルギー			
		3週	力学的エネルギーの保存(1)			
		4週	力学的エネルギーの保存(2)			
		5週	運動量と力積			
		6週	運動量保存則			
		7週	反発係数			
		8週	等速円運動(1)			
	4thQ	9週	等速円運動(2)			

		10週	等速円運動(3)	
		11週	単振動(1)	
		12週	単振動(2)	
		13週	単振動(3)	
		14週	万有引力(1)	
		15週	万有引力(2)	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	物理	力学	速度と加速度の概念を説明できる。	3	前1,前2,前4
				直線および平面運動において、2物体の相対速度、合成速度を求めることができる。	3	前1,前3
				等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関する計算ができる。	3	前4
				平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	3	前2,前3,前4
				自由落下、及び鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	前5
				鉛直投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	前6
				水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。	3	前7
				物体に作用する力を図示することができる。	3	前8
				力の合成と分解をすることができる。	3	前8
				重力、抗力、張力、圧力について説明できる。	3	前8,前12
				フックの法則を用いて、弾性力の大きさを求めることができる。	3	前8
				慣性の法則について説明できる。	3	前9
				作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。	3	前9,前10
				運動方程式を用いた計算ができる。	3	前9,前10
				静止摩擦力がはたらいっている場合の力のつりあいについて説明できる。	3	前11
				最大摩擦力に関する計算ができる。	3	前11
				動摩擦力に関する計算ができる。	3	前11
				仕事と仕事率に関する計算ができる。	3	後1
				物体の運動エネルギーに関する計算ができる。	3	後2
				重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	後2
				弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	後2
				力学的エネルギー保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	後3,後4,後7
				物体の質量と速度から運動量を求めることができる。	3	後5
				運動量の差が力積に等しいことを利用して、様々な物理量の計算ができる。	3	後5
				運動量保存則を様々な物理量の計算に利用できる。	3	後6,後7
				周期、振動数など単振動を特徴づける諸量を求めることができる。	3	後8,後10,後11,後12,後13
				単振動における変位、速度、加速度、力の関係を説明できる。	3	後11,後12,後13
				等速円運動をする物体の速度、角速度、加速度、向心力に関する計算ができる。	3	後8,後9,後10
				万有引力の法則から物体間にはたらく万有引力を求めることができる。	3	後15
				万有引力による位置エネルギーに関する計算ができる。	3	後15
				力のモーメントを求めることができる。	3	前13
				剛体における力のつり合いに関する計算ができる。	3	前14
				重心に関する計算ができる。	3	前15

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0